

## 胃がん検診について

うがじんクリニック  
宇賀神一名 先生

胃がん検診は、市内在住の40歳以上の人を対象に、例年5月1日から11月30日までの期間で行われています。バリウムによる集団検診は太田・尾島・新田・藪塚本町の各保健センター、および各行政センターに検診者が来て行われます。個別検診は、現在43の医療機関で行われており、施設によっては内視鏡検査を選ぶこともできます(実際は内視鏡検査を受けている人の方が多いです)。

平成22年度は約6万6,000人が対象で、このうち実際に検診を受けた人は約1万3,700人(受診率20.7%)でした。検診を受けている人は60歳代、70歳代の人が多く、40歳代の人と80歳代以上の人は少なくなる傾向でした。受診された人の中で胃がんが見付かった人は62人でした。

また太田市医師会では胃がん検診に併せて、ピロリ菌の感染診断や胃の粘膜萎縮(薄くなること)の評価も独自に行っています。おおまかに言うと、ピロリ菌に感染していて胃の粘膜萎縮が高度なほど、胃がんの危険度が高まります。

胃がんと診断されると、病変の広がりや患者さんの体力・基礎疾患の有無について精査し、治療法が決められます。最近では早期のがんは開腹手術を行わず、内視鏡による治療が行われる場合もあります。手術になる場合もその進行度に応じて、腹腔鏡を用いた縮小手術も多く行われるようになってきています。

しかしその一方で、進行がんで亡くなる方も依然としていらっしゃいます。昔から早期発見・早期治療といわれますが、診断・治療の技術が進歩してもこの原則は変わりません。

毎年検診を受ける人がいる一方、新たに検診を受ける人の割合が少ないようです。近年は受診率が約20%付近で推移していますので、まだ一度も検診を受けたことのない人は受診をお勧めします。今年度の検診はまもなく終了しますが、症状のある人は検診期間以外でも、早めにかかりつけの先生に相談してください。